

重要カレイ類の資源評価と管理技術に関する研究

(資源評価調査・資源回復計画作成推進事業)

曾田一志・佐々木 正・沖野 晃・村山達朗

1. 研究目的

本県の底びき網漁業の重要資源であるムシガレイ、ソウハチ、アカガレイの資源状況を漁獲統計調査、市場調査、試験船調査により把握し、科学的評価を行なうとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行う。

2. 研究方法

上記3種について、漁獲統計資料の収集、市場における漁獲物の体長組成調査、生物精密測定および試験船による分布調査を実施した。さらに、これらの調査結果をもとに独立行政法人水産総合研究センターおよび関係各県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い生物学的許容漁獲量(ABC)の推定を行った。

3. 研究結果

3魚種について漁獲統計資料の整備を行うとともに、島根丸による試験操業時に漁獲された漁獲物の体長測定を行った。また、浜田港、恵曇港において漁獲物の体長組成調査を実施し、一部標本について体長、体重、生殖腺重量、胃内容物等の測定を行った。さらに、独立行政法人日本海区・西海区水産研究所が中心となる資

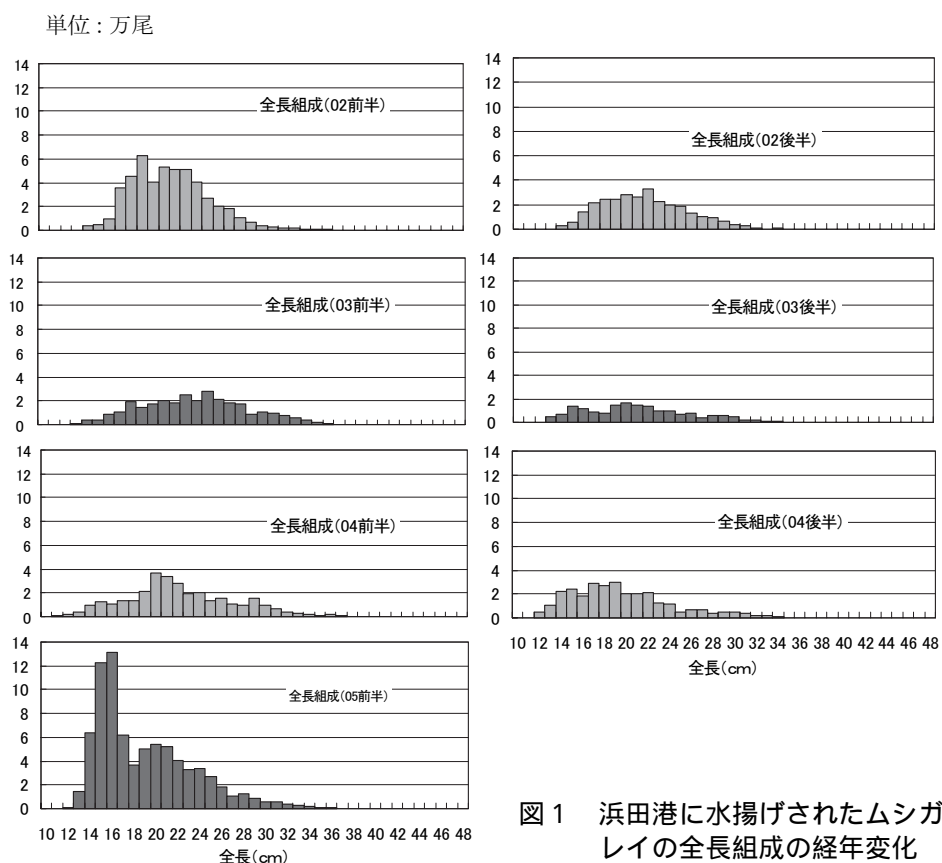


図1 浜田港に水揚げされたムシガレイの全長組成の経年変化

源評価会議に参加し、資源量、漁獲水準、漁獲強度の推定と、管理方策の提言を行った。

ムシガレイについては過去の市場調査等の結果を元に全長組成の頻度分布の経年変化を求めた(図1)。その結果、2002年漁期以降、小型魚の漁獲が急減していたが、2005年漁期に入り、小型魚の漁獲量が再び増加し、卓越年級の発生が示唆された。今後の資源動向が注目される。